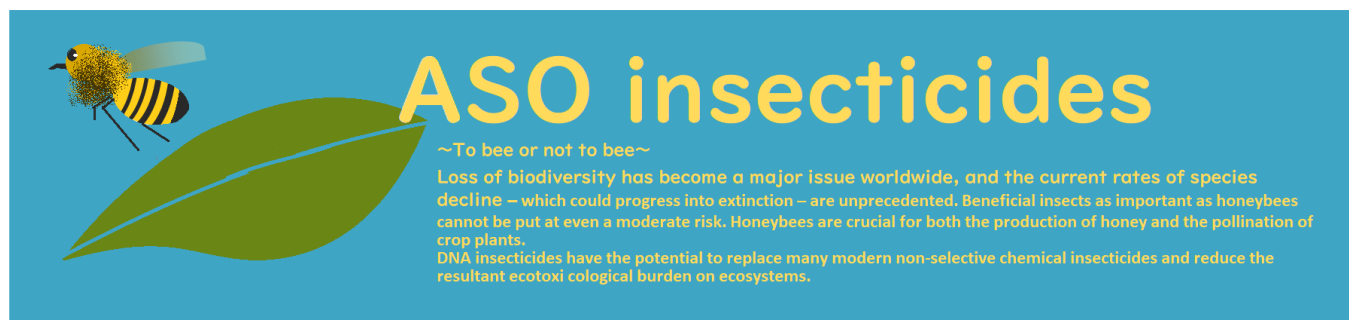


DNA insecticides / アンチセンスオリゴヌクレオチド殺虫剤



今回ご紹介する論文では、他の害虫に比べて殺虫剤への感受性が高いと言われる益虫ミツバチに焦点を当てて、殺虫剤について考察しています。殺虫剤を選択するにあたり何を重視しどうするべきかという疑問を投げかけ、解決策の一つとしてアンチセンスオリゴヌクレオチド（ASO）殺虫剤を提示しています。

▶ To bee or not to bee: creating DNA insecticides to replace non-selective organophosphate insecticides for use against the soft scale insect *Ceroplastes japonicus* Green

To bee or not to bee : 非選択的な有機リン系殺虫剤に替わる DNA 殺虫剤を創製し、軟鱗翅目昆虫 *Ceroplastes japonicus* Green に使用する

益虫の減少、人命危機や疾患（化学殺虫剤に間接的もしくは直接的に関連）の増加を考慮したとき、選択性を持たない化学殺虫剤を可能な範囲で放棄するという決断をしなければならない時が来ていることは明らかであると筆者らは言います。化学殺虫剤の改良、もしくは、ASO 殺虫剤の採用という新たな可能性があることを示しており、ここでは特に後者について詳述しています。ASO 殺虫剤が軟鱗虫に対してきわめて有効であることを実験結果で示し、さらにそれ以外の標的害虫についても、遺伝子配列に応じた選択的な殺虫剤の作製の可能性に言及しています。そして筆者らは、現在の主流である有機リン系殺虫剤に取って替わることへの期待とその可能性も示唆しています。

Useinov, Refat Zhevdetovich, et al. "To bee or not to bee: Creating DNA insecticides to replace non-selective organophosphate insecticides for use against the soft scale insect *Ceroplastes japonicus* Green." *Journal of Plant Protection Research* 60.4 (2020).

そのオリゴ合成、承ります！

文献のアプリケーションには、日本遺伝子研究所のオリゴヌクレオチドをお勧めします！

非修飾 ASO の合成を承ります。
増量合成も可能ですので、是非ご相談ください。

増量合成

⇒[詳細はこちら](#)